



けやき

令和2年10月30日
東村山市立東村山第六中学校
学校だより 11月号
東村山市秋津町2-29-14
発行者 校長 大堀 浩

「あなたはやさしいか」

校長 大堀 浩

◆「あなたはやさしいか」と問われたら、どう答えるでしょうか。国立重監房資料館の黒尾先生が、ハンセン病資料館の成田前館長から尋ねられた言葉です。

『自分は人にやさしいか』を問い続けているから、人にも問う。私は、人を人として見ているか」と。「病人、老人、黒人等、知らず知らずのうちに、『〇〇のくせに』とっていないか。」

『優しさ』とは、『人』の『憂い』に寄り添うこと。どんな人も人は人。」

『私はやさしいか』という問いは、自らの『本音』と向き合うこと。」等のことばをいただきました。

ハンセン病だけでなく、いじめや人権侵害等についても、人権感覚を磨き続けていきたいものです。

人権とは、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」です。全員が気持ちよく生活できる教室・学校であるためには、そこで生活する大人も子供も全員が、この人権の意識をもち、人権の感覚が磨かれていなければなりません。

◆第1学年生徒は、人権教育の一環として、人権啓発ビデオ「未来への虹—ぼくのおじさんは、ハンセン病—」を見ました。多磨全生園入所者自治会会長の平沢保治さんをモデルに、分かりやすくアニメ化したものです。小学校で見た人もいます。

平沢さんたち元患者は、ハンセン病によって故郷を捨てさせられ、人としての権利を奪われ、多磨全生園での生活を強いられました。以前勤務していた小学校では、直接平沢さんに話を聞く機会が何

回もありました。このような人権の無視が行われないように、私達は正しいことを学び、人権感覚を身に付けなければなりません。

92歳になる平沢さんは、東京オリンピックの聖火ランナーに選ばれ、トレーニングを行っているというニュースで報じられていました。私たちもぜひ応援したいものです。

全員が「地球人」としての人権感覚を高めていく必要があります。

◆また、平沢さんの寄付金による「東村山市夢と希望プロジェクト」の一環として、ジャズ鑑賞教室が行われました。黒人差別によるジャズ発祥の歴史を踏まえて、楽しく鑑賞するとともに、音楽で表現することの楽しさ、違っていいことや、音によるコミュニケーションを感じ、人権についてもさらに深く感じ取ることができました。

◆生徒総会が行われ、役員会・各種委員会等の活動目標・活動内容等が承認され、後期の活動が正式に始まりました。

「委員の活動内容が良かったです。」「活動してくれてありがとうございます。」「という前向きな意見もあり、素晴らしかったです。生徒会は、生徒全員によって組織され、六中での学校生活をより充実したものにすることが目的です。役員や委員会に属していなくても、生徒全員で「The Best School」のスローガンを目指し、役員や各種委員に協力して、生徒会活動・委員会活動等を盛り上げることを生徒の皆さんには期待しています。